

環境経営レポート

2023年度版

取組期間：2023年 8月～2024年7月

発行日：2024年10月5日



ECO 
ACTION 21

林土木工業 株式会社



CONTENTS 目次

	・環境経営方針	P1
	・組織の概要	P2
	・実施体制	P3
	・環境経営目標とその実績 【全社】【事務所】	P4
	環境経営目標	
	環境経営目標の達成状況	P5
	評価	
	・環境経営目標とその実績 【現場】	P6
	環境経営目標	
	環境経営目標の達成状況	P7
	評価	
	・環境経営計画及びその取組結果と評価	P8～15
	・主な環境活動の内容	P16
	・環境関連法規等の遵守状況の確認 及び評価並びに違反、訴訟などの有無	P17
	・代表者による全体の評価と見直し	P17
	・次年度の環境経営目標と環境経営計画	P18～19



環境経営方針

当社は、建設業を通し地域のインフラ整備のための公共工事を行っており、今後、地球の環境を守り続けるため、地域に密着した貢献活動を行うとともに、環境負荷の削減活動及び環境経営の継続的な改善活動に努めてまいります。

1

環境負荷の削減のため、以下の取組を行います。

- (1). 使用エネルギー（電気・ガス・燃料など）の削減に努めます。
- (2). 建設廃棄物の分別及び適正処理に努めます。
- (3). 建設機械使用に伴う騒音・振動の低減に努めます。
- (4). 排出ガス対策型の機械使用に努めます。
- (5). 水使用量の削減に努めます。
- (6). 化学物質（塗料・接着剤等）の適正管理に努めます。
- (7). 工事特性、創意工夫、社会性等を配慮した施工を行います。
- (8). グリーン調達を促進します。

2

地域貢献活動を実施します。

- (1). 事務所周辺での清掃・美化活動に努めます。
- (2). 現場周辺での清掃・美化活動に努めます。
- (3). 行政機関等が行う環境保全活動に協力します。

3

環境関連法規その他の要求事項を遵守します。

4

この環境経営方針を維持・継続していくため、環境教育をはじめ、環境に関する知識の習得に努めてまいります。

5

活動期間中の結果をまとめた環境経営レポートを作成し、一般に公表します。

制定日 2008年 10月 1日

改訂日 2019年 3月 1日



林土木工業 株式会社

代表取締役 林 英機



組織の概要

事業所名 林土木工業 株式会社

代表者名 代表取締役 林 英 機

所在地 〒819-0038
福岡市西区大字羽根戸724番地の14
[TEL] 092-811-0186
[FAX] 092-811-0198

事業内容 【特定建設業】 福岡県知事 許可(特-31) 第99771号
土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業
舗装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、水道施設工事業

認証登録範囲 【対象事業所】全組織
【対象活動】土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業
舗装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、水道施設工事業

環境管理責任者 内山 進
[E-mail] uchiyama@hayashi-civil.co.jp

会社設立 1980年3月

事業規模

活動規模	単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		(令和2年)	(令和3年)	(令和4年)	(令和5年)
完成工事高	百万円	276	286	281	351
従業員	人	10	10	8	8

□事業年度 8月～翌年7月

□会社沿革

1980年3月 林土木工業 株式会社として法人設立

1999年4月 資本金3000万円に増資

2002年9月 ISO90001:2000認証取得

2005年3月 福岡県知事許可番号(特-16) 第99771号登録

2009年6月 エコアクション21 認証登録 認証番号 0003687号

2010年3月 福岡県知事許可番号(特-21) 第99771号登録 (更新)

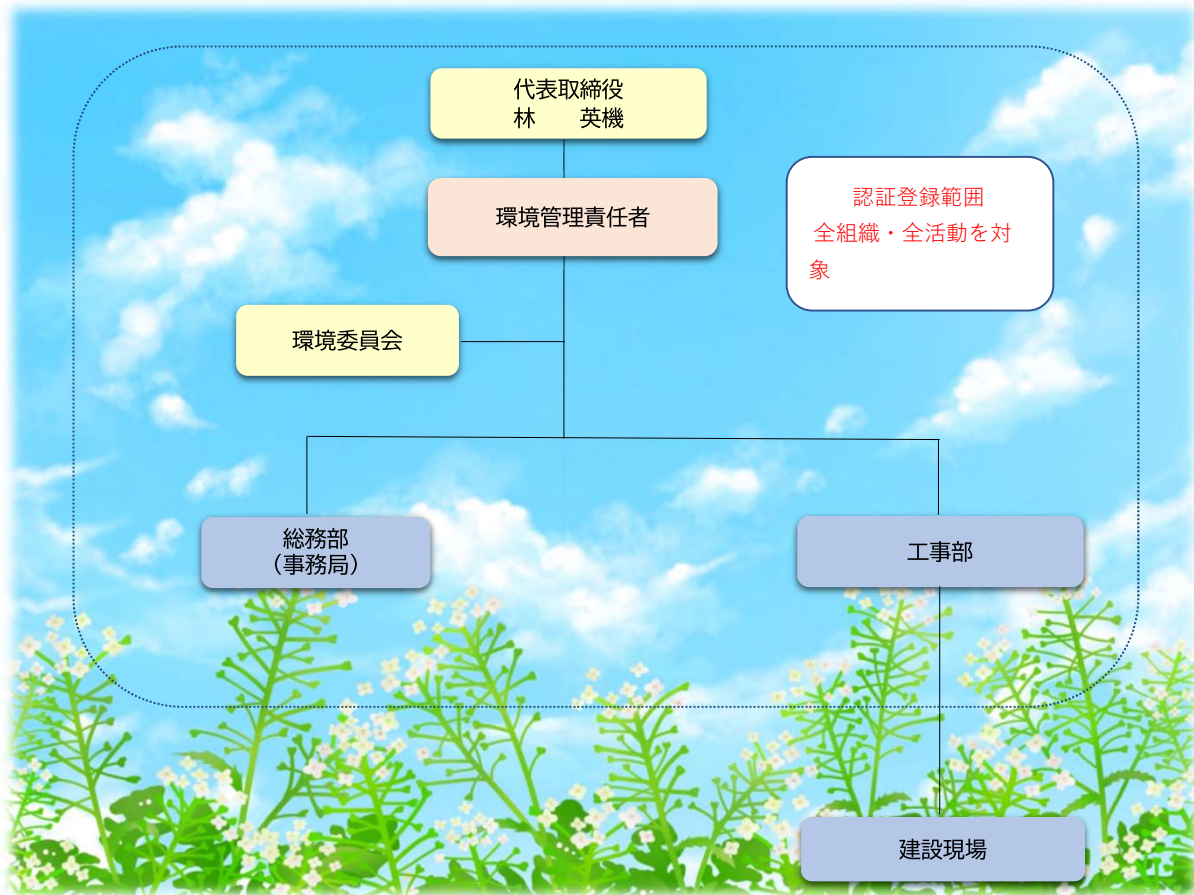
2015年3月 福岡県知事許可番号(特-26) 第99771号登録 (更新)

2020年3月 福岡県知事許可番号(特-31) 第99771号登録 (更新)





実施体制



役割分担表

管轄	役割・責任・権限
代表取締役	全体の掌握
	必要な資源（人・物・金）の確保
	経営における課題とチャンスの明確化
	評価・見直しを含むアウトプット
環境管理責任者	エコアクション21の運営の統括
	運用状況の社長への報告
	環境委員会の招集
総務部 (事務局)	関連文書の管理
	データの収集と数値管理
	環境経営記録の作成と管理
工事部	作業現場の全体的な管理
	現場社員への環境経営計画の周知・徹底
	データの収集と数値管理
環境委員会	環境経営計画の報告
	今後の活動計画の確認
	社長による評価・見直しの検討・指示
全従業員	環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚する
	決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する

環境経営目標とその実績 <全社>

□環境経営目標、達成状況

環境経営目標/実績	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
		基準年	(20年8月～ 21年7月)	(21年8月～ 22年7月)	(22年8月～ 23年7月)	(23年8月～ 24年7月)	(24年8月～ 25年7月)
二酸化炭素排出量の削減目標	kg-CO ₂ /年	36,437	1%削減 36,072	2%削減 35,996	3%削減 35,919	4%削減 38,428	5%削減 38,346
二酸化炭素排出量の削減実績	kg-CO ₂ /年	38,712	1%削減 33,706	2%削減 20,581	3%削減 33,968	4%削減 25,964	5%削減

2023年度は過去3年間の平均（二酸化炭素排出量39,067kg-CO₂）を基準値とし、4%削減として目標値を見直しております。

環境経営目標とその実績 <事務所>

□環境経営目標

環境経営目標	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
		基準年	(20年8月～ 21年7月)	(21年8月～ 22年7月)	(22年8月～ 23年7月)	(23年8月～ 24年7月)	(24年8月～ 25年7月)
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂ /年	7,673	1%削減 7,596	2%削減 7,520	3%削減 7,443	4%削減 7,911	5%削減 7,829
一般廃棄物排出量の削減	t/年	0.266	1%削減 0.263	2%削減 0.261	3%削減 0.258	4%削減 0.255	5%削減 0.253
水使用量の削減	m ³ /年	28.6	1%削減 28.3	2%削減 28.0	3%削減 27.7	4%削減 27.5	5%削減 27.2
グリーン調達の促進	努力目標	事務・生活用品等の調達時には、グリーン品目の選択・購入に努力する。					

2023年度は過去3年間の平均（二酸化炭素排出量8,241kg-CO₂）を基準値とし、4%削減として目標値を見直しております。

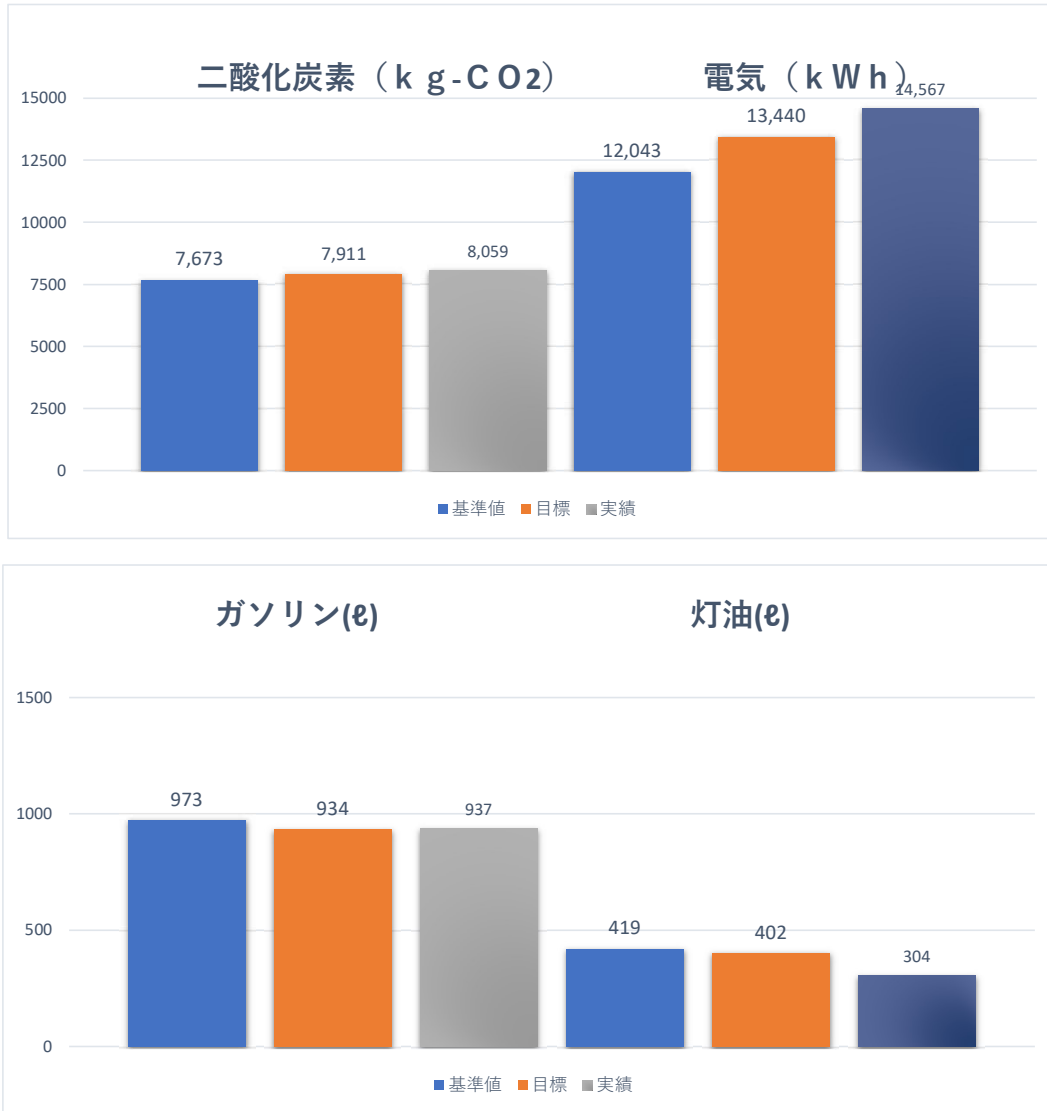
□環境経営目標の達成状況

環境経営目標	単位	2019年度	2023年度(見直し後)			
		基準年	4%削減目標	実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	7,673	7,911	8,059	98%	×
電気使用量の削減	kWh	12,043	13,440	14,567	92%	×
ガソリン使用量の削減	ℓ	973	934	937	99.7%	×
灯油使用量の削減	ℓ	419	402	304	132%	○
一般廃棄物排出量の削減	t	0.266	0.255	0.213	120%	○
水使用量の削減	m ³	28.6	27.5	26.55	104%	○
グリーン調達の促進	努力目標	事務・生活用品等の購入に際しては、グリーン品目を選択するように努力した。				

※電力の二酸化炭素排出係数として、九州電力（2018年）の調整後排出係数0.347kg-CO₂/kWhを用いて算出しています。

2023年度は過去3年間の平均（二酸化炭素排出量8,241kg-CO₂/電気：14,000kWh/年）を基準値とし、4%削減として目標値を見直しております。

□ 達成状況



評価

今年度の二酸化炭素の排出量4%削減目標を掲げ、全社は達成できたが、事務所は達成できなかった。

具体的に事務所について、排出エネルギー項目別で見るとガソリンは目標値より増加し（昨年実績対比712では24%程増加）、電気も目標値より増加した。（昨年実績対比13,921では5%程増加）また、灯油は目標値より減少した。（昨年実績対比304では0%程）

（ ）内は、昨対実績比と増減率です。

一般廃棄物排出量、水は目標値より減少した。

今後はこれまでの取り組みをさらに強化し、社員全員が業務において省エネルギーを意識し、今後も継続してこの姿勢を持ち続けていきたい。

環境経営目標とその実績 <現場>

□環境経営目標

環境経営目標	単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
		基準年	(20年8月～ 21年7月)	(21年8月～ 22年7月)	(22年8月～ 23年7月)	(23年8月～ 24年7月)	(24年8月～ 25年7月)
			1%削減				
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	28,764	28,476	28,476	28,476	30,517	30,517
電気使用量の削減	kWh	96	95	95	95	396	396
ガソリン使用量の削減	ℓ	457	452	452	452	1,287	1,287
軽油使用量の削減	ℓ	10,725	10,618	10,618	10,618	10,618	10,618
建設廃棄物のリサイクル率	%/年	100	100	100	100	100	100
建設発生土のリサイクル率	%/年	90	90	90	90	90	90
騒音・振動・排ガスの低減 (機械使用率)	%/年	95	95	95	95	95	95
グリーン調達の促進	努力目標	再生資材、及びその他のグリーン対象品目の調達を促進する。					
化学物質の適正管理		塗料・接着剤等を使用する場合は仕入先よりデータシートを取寄せる。					

2023年度は過去3年間の平均（二酸化炭素排出量30,825kg-CO₂）を基準値とし、1%削減として目標値を見直しております。

□環境経営目標の達成状況

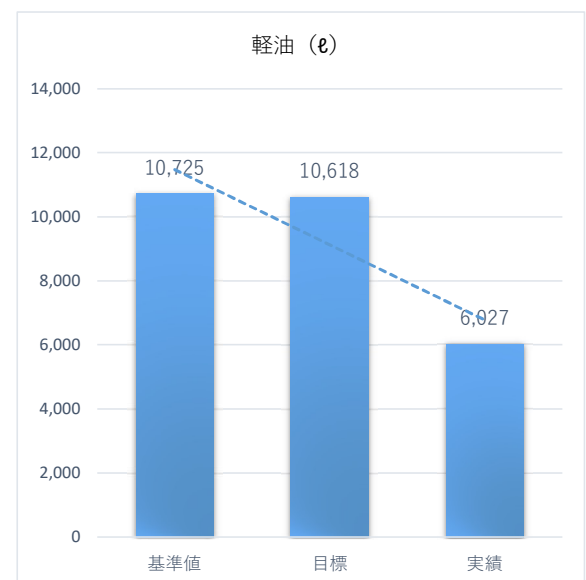
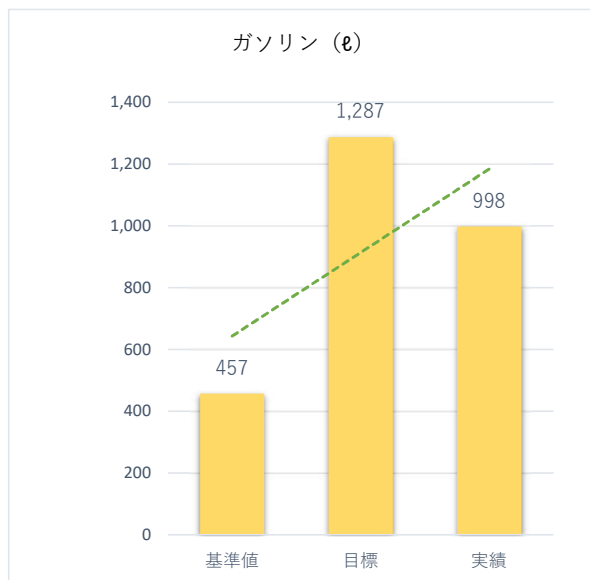
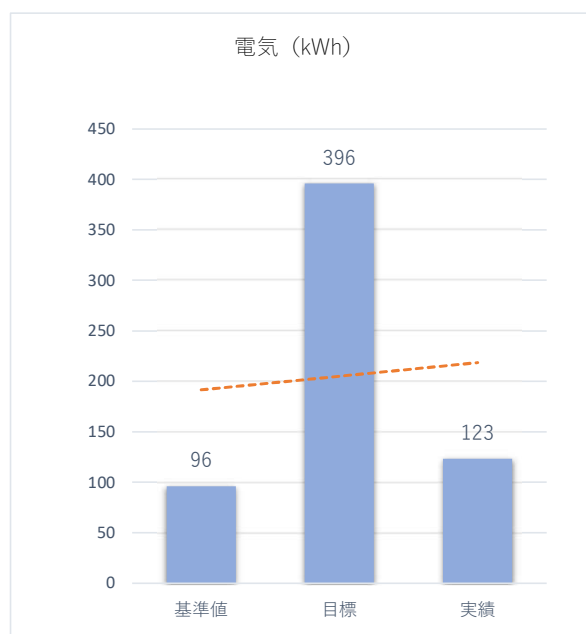
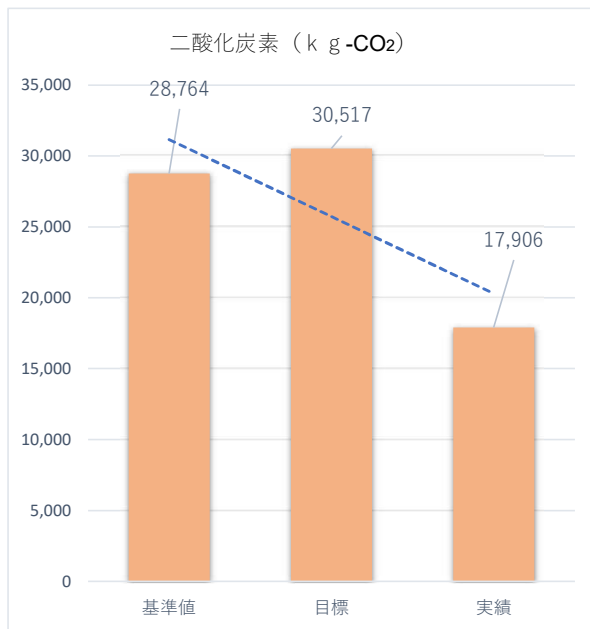
環境経営目標	単位	2019年度	2023年度(見直し後)			
		基準年	1%削減 目標	実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	28,764	30,517	17,906	170%	○
電気使用量の削減	kWh	96	396	123	322%	○
ガソリン使用量の削減	ℓ	457	1,287	998	129%	○
軽油使用量の削減	ℓ	10,725	10,618	6,027	176%	○
建設廃棄物のリサイクル率 100%						
コンクリート塊	%	100	100	100	≒	○
アスファルトコンクリート塊	%	100	100	100	≒	○
建設発生土のリサイクル率 90%						
建設発生土	%	90	90	98	109%	○
低騒音・低振動・排出ガス対策型の機械使用率 95%						
低騒音・低振動型使用	%	95	95	100	≒	○
排出ガス対策型使用	%	95	95	100	≒	○

【努力目標】

グリーン調達の促進	
グリーン調達の促進	再生資材以外の購入品目については環境に配慮した対象品目の調達促進を行った。
化学物質の適正管理	
化学物質の適正管理	該当物質なし

※電力の二酸化炭素排出係数として、九州電力（2018年）の調整後排出係数0.347kg-CO₂/kWhを用いて算出しています。

2023年度は過去3年間の平均（二酸化炭素排出量30,825kg-CO₂/電気：400kWh/ガソリン1,300ℓ/年）を基準値とし、1%削減として目標値を見直しております。



評価

今年度の二酸化炭素の排出量は、目標達成することができた。

各項目を見ていくと、ガソリン（昨年実績対比770で30%程度増加）、軽油（昨年実績対比9508で37%程度減少）は前年度より減少し、目標を達成することができた。

エコ運転の心がけを続けたことで最小限に抑えることができた。

電気は322%の達成率だった。

建設廃棄物・建設発生土のリサイクル、並びに建設機械の環境配慮については、設計仕様に基づいて実施しており、目標は達成できた。

環境への影響を最小限に抑えるため、グリーン製品の調達に力を入れた。再生可能な資源を使用し、廃棄物削減に貢献する製品を現場で使用していきたい。

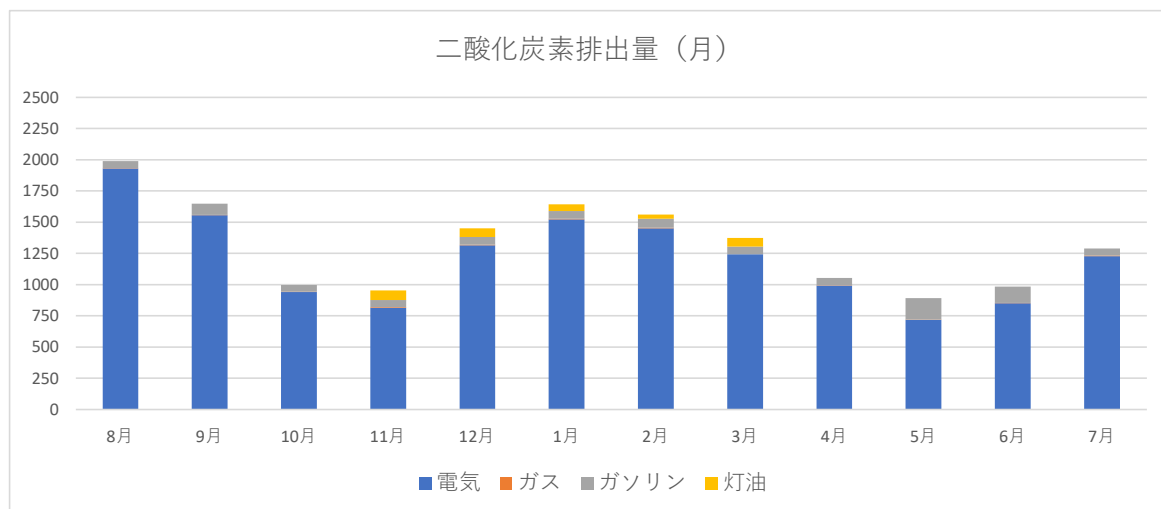
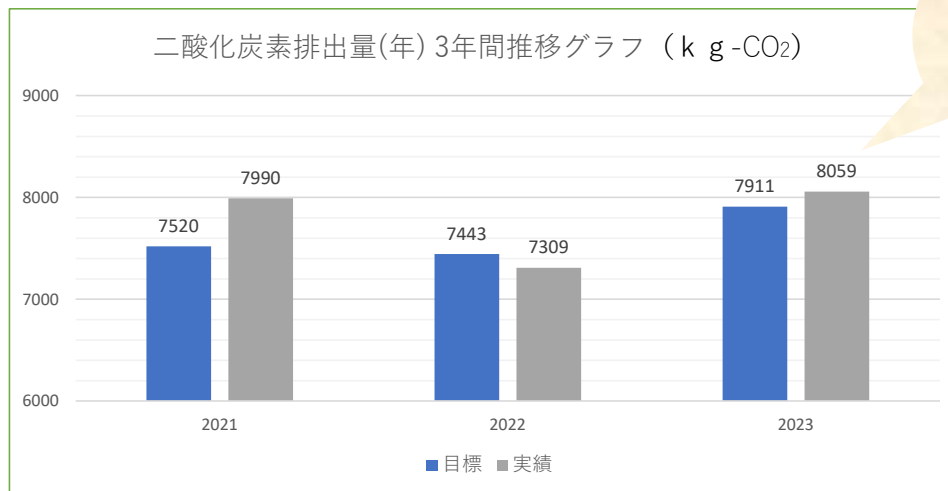


環境経営計画及びその取組結果の評価

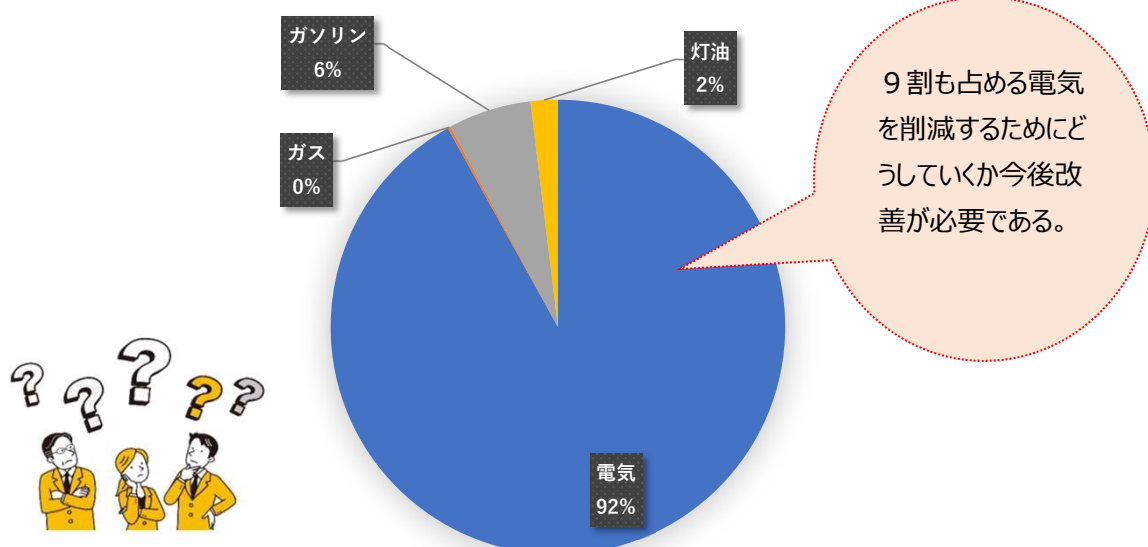
二酸化炭素排出量の削減

<事務所>

【取組目標】 **-4%**削減

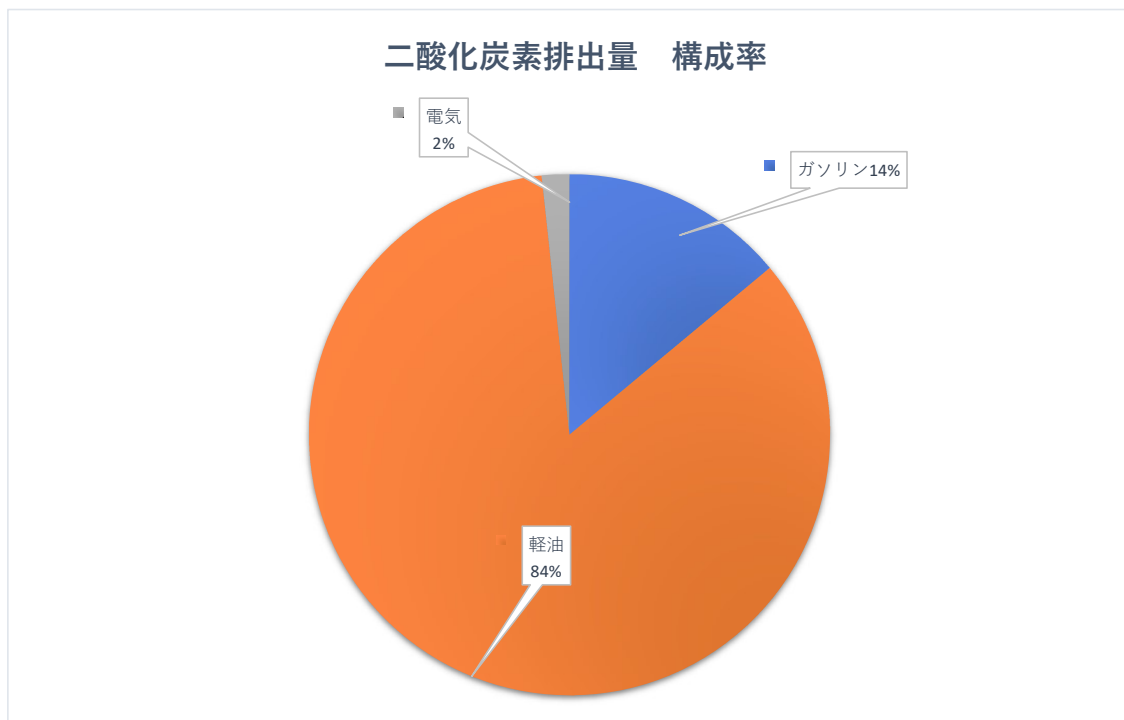
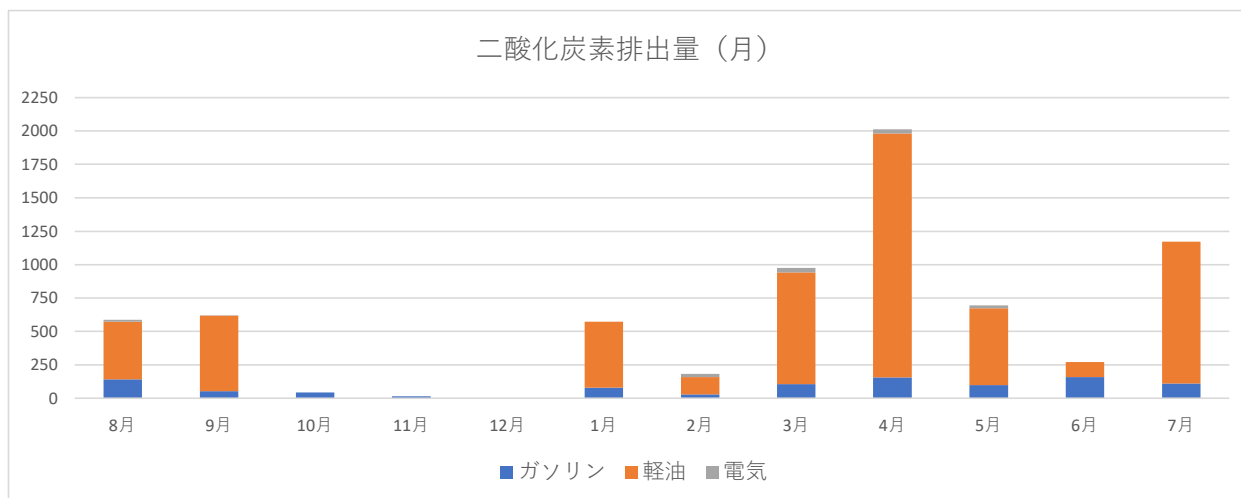
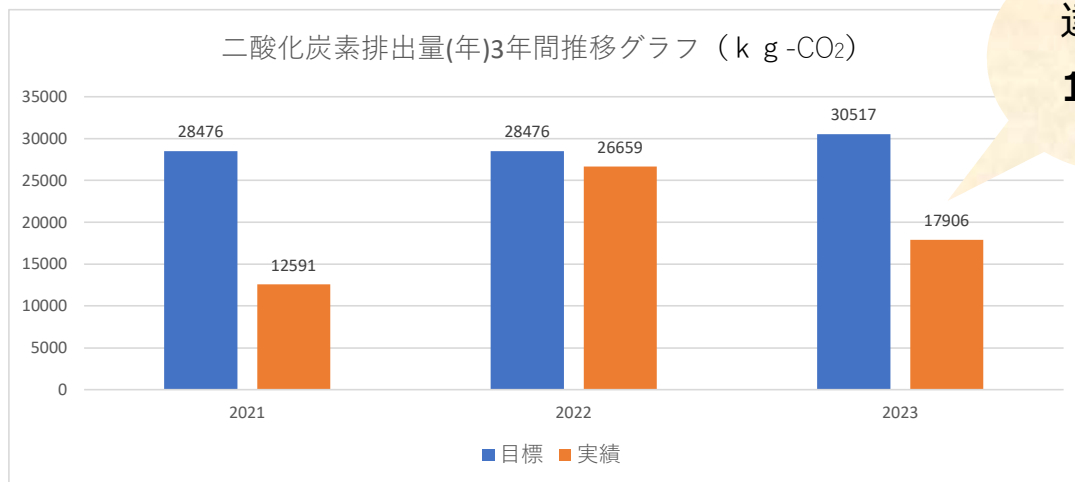


二酸化炭素排出量構成率



<現場>

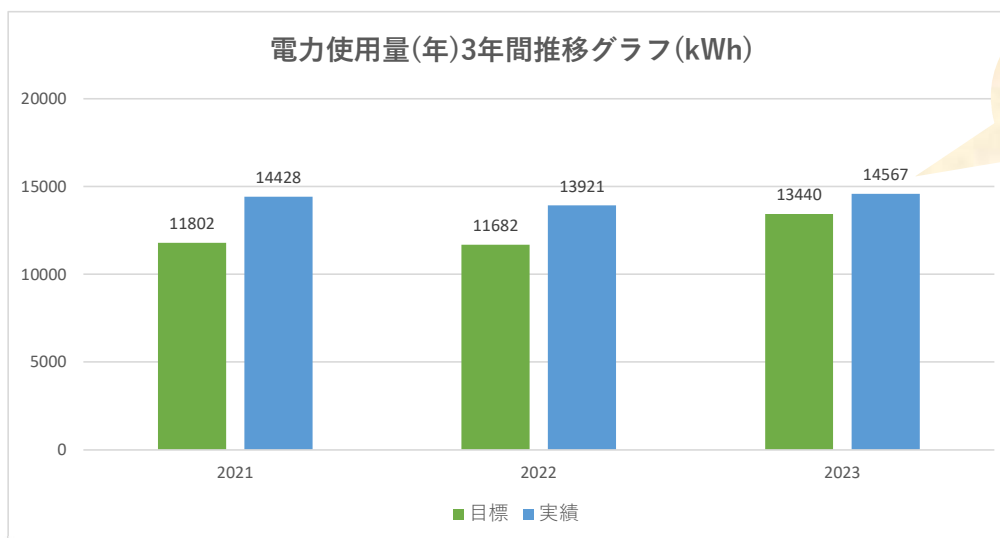
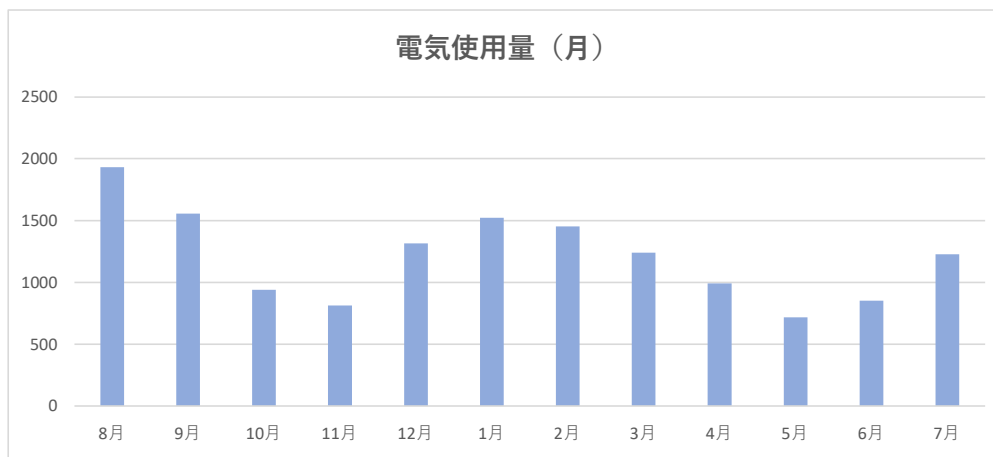
【取組目標】 **- 1 %削減**



電力使用量の削減

<事務所>

【取組目標】**-4%** 削減



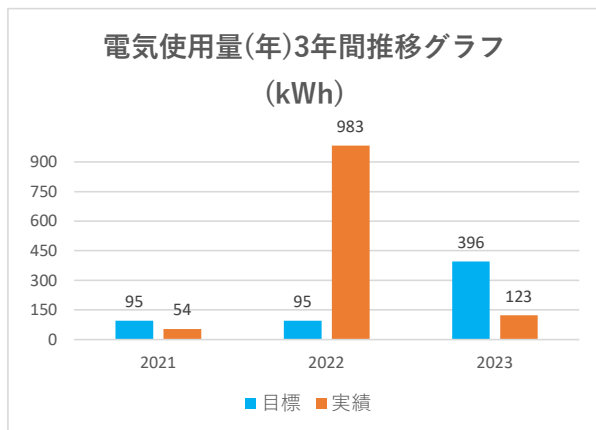
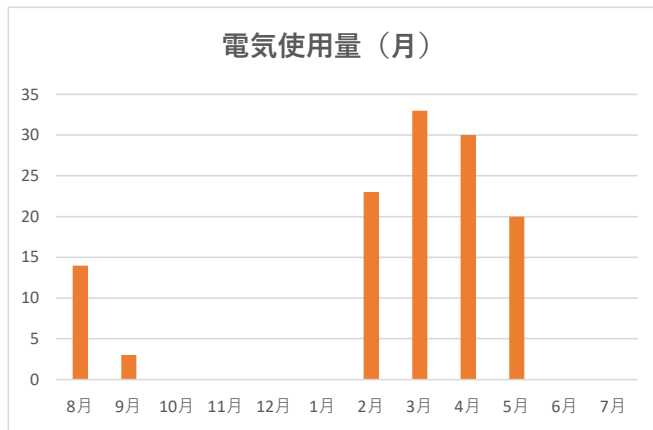
達成率
92%



取組目標	取組項目	実施状況	評価
電力使用量の削減	●余分な場所の電気は消灯する	○	夏は気温が高い日が続き、冷房の使用が増えることで使用量が一時的に増加した。一年を通じて出来る対策として、エアコンのフィルターは定期的に掃除するようにした。電気は従来の蛍光灯から全てLED証明に切り替え、電源タップや節電プラグを使用、パソコン不使用時はスリープ状態を継続している。スイッチの近くに張り紙を貼ることで消し忘れを防いだ。
	●昼休みは消灯する		
	●退社時は消し忘れをしない		
	●パソコンは退社時に電源を切る		
	●夏場のエアコンの適正温度の遵守		

<現場>

【取組目標】-1% 削減



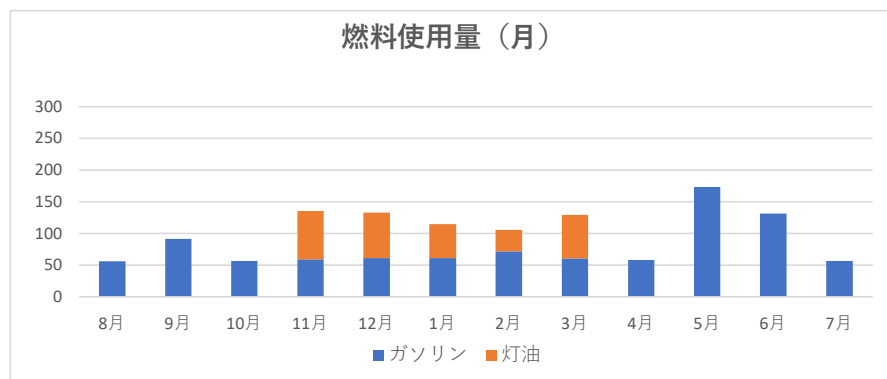
取組目標	取組項目	実施状況	評価
電気使用量の削減	●現場事務所から離れる時の消灯 ●道具類未使用時の電源オフ	○	冬の現場で暖房を多く使用し、2月～4月にかけて電気代が増えた。省エネ電気標示板、ソーラー看板機器を使用し無駄なエネルギー消費を抑えた。



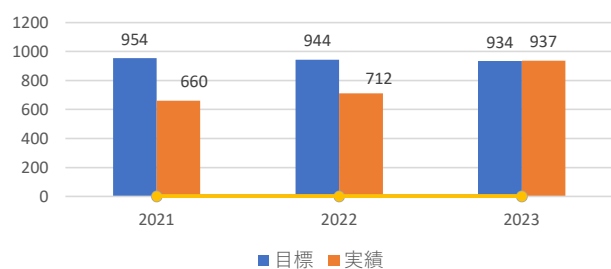
燃料使用量の削減

<事務所>

【取組目標】-4% 削減

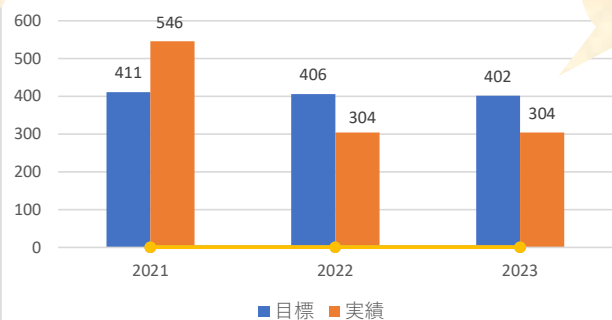


ガソリン使用量(年)3年間推移グラフ (ℓ)



達成率
99%

灯油使用量(年)3年間推移グラフ (ℓ)



達成率

取組目標	取組項目	実施状況	評価
ガソリンの使用量の削減	●タイヤの空気圧をチェックする	○	ガソリン使用量は目標達成することができなかった。車のエアコン使用が多かったことが原因と考えられる。定期的に点検し適切な空気圧の調整やエンジンオイルを定期的に交換を行い、燃費を向上させた。灯油の使用量については、12月から1月まで季節の影響により増加した。引き続き、節約を心がける取り組みを進めていきたい。
	●法定速度を守る		
	●急発進、急加速をしない		
	●エアコンの適正温度の遵守		
灯油使用量の削減	●こまめな温度調節を行う		
	●暑くなったらしばらく消す		
	●部屋を空けるときは必ず消す		

エコドライブ10のすすめ



適正温度の設定 (冬場：20℃±1)



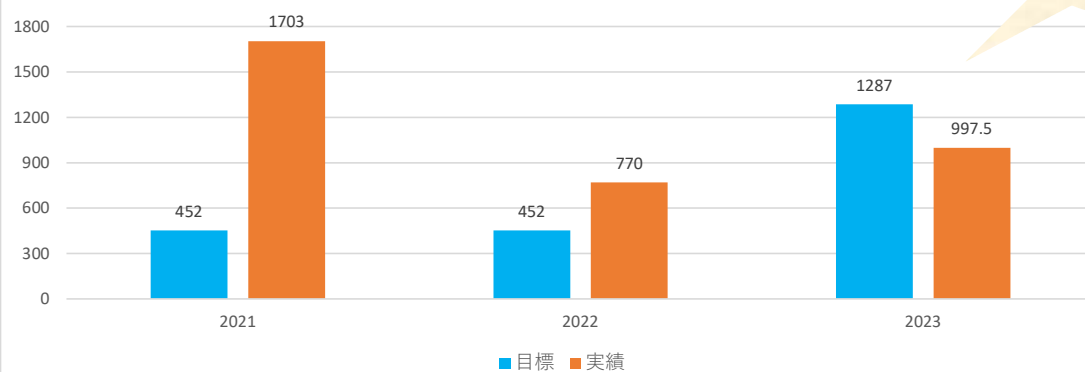
適正温度の設定 (夏場：27℃±1)



<現場>

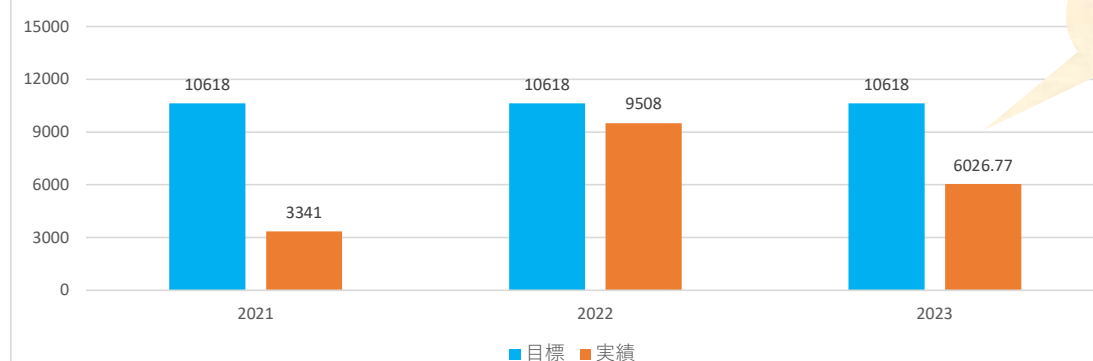
【取組目標】-1%削減

ガソリン使用量（年）3年間推移グラフ（ℓ）

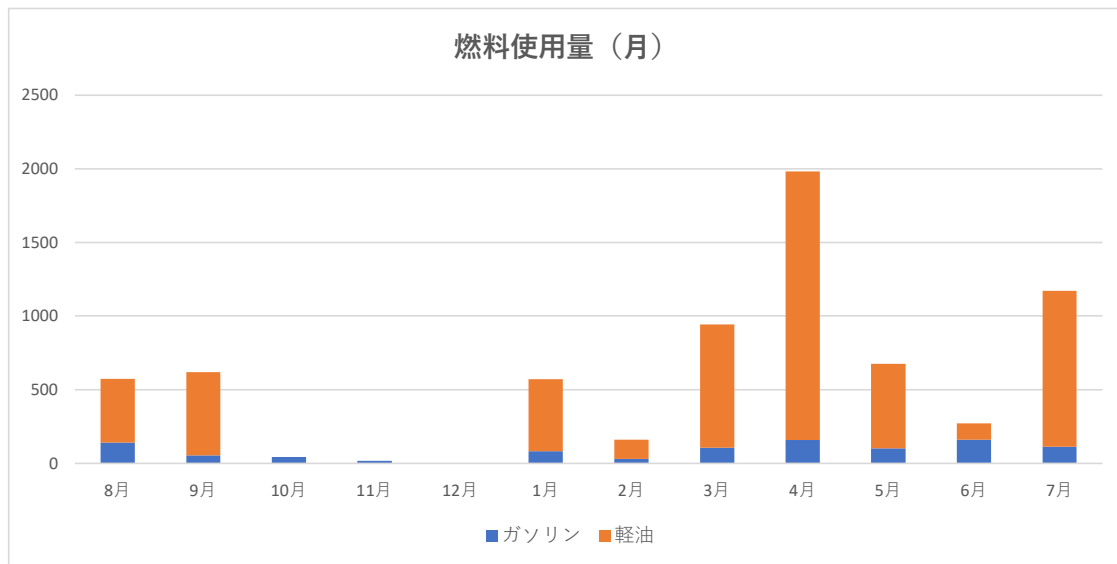


達成率
129%

軽油使用量（年）3年間推移グラフ（ℓ）



達成率
176%

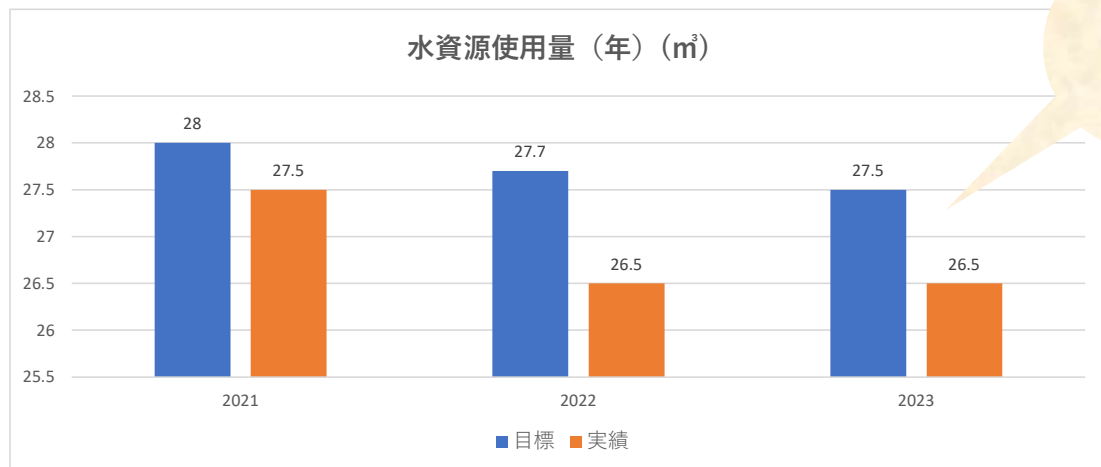


取組目標	取組項目	実施状況	評価
ガソリン・軽油使用量の削減	●作業停止時にはエンジンを切る	○	3月～4月は軽油使用量が増えたがエコ運転の心がけを続けたことで最小限に抑えることができた。ガソリン使用量は目標数値を達成でき、急ブレーキを避け、減速時にはアクセルを早めに離すことで燃料消費を抑えた。
	●車両の効率運転を励行する		

水資源使用量の削減

<事務所>

【取組目標】**-4%** 削減



節水ポスター



取組目標	取組項目	実施状況
井戸水使用量の削減	●水の出しっぱなしをしない	○
	●洗車は最小限の水量使用	
	●散水は最小限の水量使用	
評価		
目標の4%削減は達成することができた。引き続き節水に心がける。 洗面場にはポスターを貼り、意識付けを行っている。 洗車の際はバケツに汲んで使用料を抑えた。 引き続き、こまかな部分にも気を配りながら、節水に努めていきたい。		

<事務所>

購入品



取組目標	取組項目	実施状況
グリーン調達の促進	●エコマーク商品の導入	○
	●商品買い替え時のエコ商品の検討	
評価		
商品を購入する際はグリーン商品を購入している。毎年繰り返し同じ商品を購入しているので定着しているが、定期的にレビューの確認を行い、改善点や新たな商品を検索し情報収集している。		

<現場>

取組目標	取組項目	実施状況	評価
グリーン調達の促進	●現場資材は再生材を優先する	○	環境に配慮した重機を使用し、負荷ができるだけ小さいものを優先して購入するように周知徹底した。これからも環境に配慮した施工を継続して行う。
	●使用重機は適合車を使用する		
	●環境配慮の工法を優先採用する		
化学物質の適正管理	●塗料・接着剤等の使用有無確認		
	●使用の際、データシートを取寄せる		

ゴミ・紙類排出量の削減

<事務所>

取組目標	取組項目	実施状況	評価
ゴミ・紙類排出量の削減	●ゴミは必ず分別の上排出する	○	片面使用済みの用紙については裏紙コピー、メモ用紙に使用して紙の使用を減らすことでゴミの量を減らすことができた。紙文書よりも電子メールで情報を管理することで検索や共有が業務の効率化になった。缶、燃えるゴミなどは分別しペットボトルは軽く潰してリサイクル回収ボックスを利用した。社員全員に紙の排出量削減意識を広め、取り組みができた。
	●ゴミは分別の上排出		
	●ペットボトル、アルミ缶は、再生処理		
	●新聞・チラシ類は、再生処理		
	●社内使用のメモ紙は、原則裏紙で		
	●電子メールでの受発信励行		

裏紙利用の励行



ゴミの分別化の徹底



取組目標	取組項目	実施状況	評価
建設廃棄物のリサイクル率	●マニフェストの管理の徹底 ●廃棄物分別の徹底	○	マニフェストにより適正な処理をし、管理を徹底した。アスファルト殻、コンクリート殻は100%リサイクルすることができた。継続して目標を達成できるように廃棄物の分別等に留意し排出を抑えていきたい。対策型の機械使用についても適切に対処した。
建設発生土のリサイクル率	●搬出伝票の管理の徹底 ●月単位での集計の徹底		
低騒音・低振動・排出ガス対策型の機械使用率	●低騒音・低振動型の機械の使用 ●排出ガス対策型の機械の使用		

低騒音、排出ガス対策型重機の使用



現場で使用する重機等は低負荷施工機械（低騒音、排出ガス対策型重機）を使用しています。低騒音機器の導入など周囲環境への負荷を減らすようにした。環境配慮型の設備は耐久性が高く、メンテナンスや修理の頻度が減少するため維持管理費も削減できた。



再生資材への積極的利用



分別の徹底により100%再資源化を行った。廃棄物処理方法が適切か現場全体で見直し、よりリサイクル可能な廃材の選定や分別を徹底した。



建設現場で発生した土は、地盤の底に流用土として活用しています。



社会貢献の促進取組

地域環境の向上を目指して道路の美化清掃活動に積極的に参加し、社会全体での二酸化炭素削減、エコ意識を広める活動に取り組んでいます。



●使用済み切手

日本動物福祉協会への寄贈活動に参加し、使用済み切手を社内で収集しました。収集した切手は、動物のワクチン代に役立てられています。



●昇降設備

荷物の積み下ろし作業を効率的かつ安全に行うため使用しており、踏み台、手すりがついていると安全に昇降できています。



●従業員の教育と意識向上

従業員のエコ意識を高めるために定期的な話し合いを行い、エコ活動が全体に浸透するようにした。日常的な省エネ活動や現場の廃棄物の適切な処理について具体的な実施方法を共有しています。





環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社の事業活動に適用される法規等

法規等の名称	内容・基準等	遵守状況
廃棄物処理法	収集運搬に関するマニフェストの適正処理	○
	前年度マニフェスト交付状況の知事（市長）への報告	○
	多量排出事業者（年間1,000t以上）の産業廃棄物処理計画書の知事（市長）への提出	—
建設リサイクル法	建設4品目の分別と再資源化	○
自動車リサイクル法	使用済み自動車の引渡義務	○
オフロード法	特定特殊自動車排ガスの規制等	○
騒音規制法	建設現場での機械使用時に適用	○
振動規制法	建設現場での機械使用時に適用	○
フロン排出抑制法	エアコンの簡易点検及び廃棄処理時のフロン類の引き渡し	○

* 環境関連法規の違反及び関係機関からの指摘及び住民からの苦情などはありません。



代表者による全体の評価と見直し

1. 全体評価

一年間の活動を通して、二酸化炭素の削減に向けた環境経営活動は適切に実施できた。
エネルギー効率の向上や省エネ設備の導入により、前年と比較して事務所91%建設現場149%の二酸化炭素削減を達成。従業員の協力と努力が成果に結びついた。事務所は、灯油は達成できたが、残りは未達成だった。現場は電気、ガソリン、軽油は達成。グリーン調達では、事務所、現場ともエコ商品の調達に努力した。建設現場における建設機械使用については、環境配慮型機械を積極的に導入することで、維持管理費も削減できた。また一般廃棄物関係、建設廃棄物関係についても廃棄物の総量が削減し、適切に対処できた。

2. 見直し

今年度から環境経営方針の見直し・環境経営目標・環境経営計画について数値目標の見直しを行った。二酸化炭素の排出量について会社全体で達成できた。見直しにより現実的な目標設定達成に繋がったと思う。SDGsの取組として廃棄物の削減、環境に優しい材料を選び、雨水の再利用や、使用機械は排出ガス対策型を使って温室効果ガスの排出削減に向けた取組を行った。
新たな改善点や未達成課題の見直しを行い、定期的な報告とコミュニケーションを通じて全員の目標意識を維持し続けたい。
また、2025年度には更に新たな5ヶ年計画の数値目標の検討にはいきたい。





次年度の環境経営目標及び環境経営計画

全社：(環境経営目標)、(環境経営活動の取組結果の評価)に従って、継続して実施する。

2024年度 環境経営目標	【基準値】	見直し後の5%削減	
	2019年度実績		
二酸化炭素排出量の削減(kg-CO ₂)	36,437	38,346	

事務所：(環境経営目標)、(環境経営活動の取組結果の評価)に従って、継続して実施する。

2024年度 環境経営目標	【基準値】	見直し後の5%削減	2024年度環境経営計画
	2019年度実績		
二酸化炭素排出量の削減(kg-CO ₂)	7,673	7,829	電気・ガソリン・灯油・一般廃棄物・水の使用量・排出量削減の為の取組を項目分けし、実施状況の確認・評価を行う。
電気使用量の削減(kWh)	12,043	13,300	
ガソリン使用量の削減(ℓ)	973	924	
灯油使用量の削減(ℓ)	419	398	
一般廃棄物排出量の削減(t)	0.266	0.253	
水使用量の削減(m ³)	28.6	27.2	

取組目標	取組項目
電力使用量の削減	余分な場所の電気は消灯する
	昼休みは消灯する
	退社時は消し忘れをしない
	パソコンは退社時に電源を切る
	夏、冬のエアコンの適正温度の遵守
ガソリンの使用量の削減	タイヤの空気圧をチェックする
	法定速度を守る
	急発進、急加速をしない
	エアコンの適正温度の遵守
灯油使用量の削減	こまめな温度調節を行う
	熱くなったらしばらく消す
	部屋を空けるときは必ず消す
井戸水使用量の削減	水の出しっぱなしをしない
	洗車は最小限の水量使用
	散水は最小限の水量使用
グリーン調達の促進	エコマーク商品の購入
	商品買い替え時のエコ商品の検討
ゴミ・紙類排出量の削減	ゴミは必ず分別の上排出する
	現場からのゴミは分別の上排出
	ペットボトル、アルミ缶は、再生処理
	新聞・チラシ類は、再生処理
	社内使用のメモ紙は、原則裏紙で
	電子メールでの受発信励行



建設現場：(環境経営目標)(環境経営活動の取組結果の評価)に従って、継続して実施する。

2024年度 環境経営目標	【基準値】	見直し後の1%削減	2024年度環境経営計画
	2019年度実績		
二酸化炭素排出量の削減(kg-CO ₂)	28,764	30,517	電気・ガソリン・軽油の使用量・排出量削減の為の取組を項目分けし、実施状況の確認・評価を行う。
電気使用量の削減(kWh)	96	396	
ガソリン使用量の削減(ℓ)	457	1,287	
軽油使用量の削減(ℓ)	10,725	10,618	
建設廃棄物のリサイクル率	100%		
建設発生土のリサイクル率	90%		
騒音・振動・排ガスの低減(機械使用率)	95%		

取組目標	取組項目
電気使用量の削減	現場事務所から離れる時の消灯
	道具類未使用時の電源オフ
ガソリン・軽油使用量の削減	作業停止時にはエンジンを切る
	車両の効率運転を励行する
グリーン調達の促進	現場資材は再生材を優先する
	使用重機は適合車を使用する
	環境配慮の工法を優先採用する
化学物質の適正管理	塗料・接着剤等の使用有無確認
	使用の際、データシートを取寄せる
建設廃棄物のリサイクル率	マニフェストの管理の徹底
	廃棄物分別の徹底
建設発生土のリサイクル率	搬出伝票の管理の徹底
	月単位での集計の徹底
低騒音・低振動・排出ガス対策型の機械使用率	低騒音・低振動型の機械の使用
	排出ガス対策型の機械の使用

事務所・現場のグリーン調達の促進については、引き続き努力目標とする。

事務所・現場の九州電力二酸化炭素調整後排出係数：0.347kg-CO₂/kWh（2018年度）を使用

